
リリカルなのはStrikers 支え支えられて

れおん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのはStrikers 支え支えられて

【Nコード】

N7029Y

【作者名】

れおん

【あらすじ】

リリカルなのはStrikersの二次小説です。vividまで行くつもりなのでよろしくお願いします。

ヒロインははやてです。

第一話 夢の部隊に夢に見た人

機動6課がファーストアラートを終えて落ち着きはじめてた頃部隊長室に隊長陣が集められていた

「はやてちゃん、今日はどうしての？」

なのはが尋ねる

「みんなはGHOST部隊って知ってる？」

「少しなら。確か部隊の人間が一人だけの部隊だよな？あるけど無いような物って。」

はやての問いに答えたフェイト

「半分正解やね。実はその部隊は設立した時から一人やってん。」

「え！それってまさか…」

「そや。その部隊はたった一人の為にレジアス中將が作ったねん。」
そう言っではやては話始めた

「いきなりやけど、その部隊を隊長が壊して6課に来るらしいねん。」

「

「それってスパイってこと？」

「中將にはそういうてるけど実はうちの108部隊に居った時の先輩やねん。」

「それっていつの話？」

なのはがはやてに尋ねる

「実はな…」

「実は？」

はやての言葉に息を呑むなのはとフェイト

「明日の朝やねん。」

「よかった〜」

安堵の表情を見せるフェイト

「ちなみにこれが資料やから軽く目通しといてね。」

そういうとはやては一枚の紙を渡した

「なにに。え〜と名前はディステイン地位は昇進蹴って一等陸尉。魔力値はB、魔導師ランクは…陸戦SSS+空戦は不明。稀少技能時間操作。前部隊の隊長からのコメントは…って本人じゃない!! え〜とデスクワークは嫌いです?」

「この人陸尉なのにデスクワーク嫌いって。大丈夫なの?」

「実は部隊潰した理由はデスクワークから逃げる為らしい。…まあそれとサボりぐせがなかったらめっちゃ強いしFWはもちろん隊長陣も鍛えてもらえるから一石二鳥や」

「しかも自称スパイがいるって言うことで地上でも動きやすいってわけだね?」

「それに加えてこの人の本名はミッドチルダと反管理局組織で知らん人は居らんよ。」

「っていつか名前嘘だったんだが (。 。 ;) 「ん」

一人驚くフェイト

第三話

レーヴァテインを構えているシグナム

「行くぞ山村!!」

横薙に一閃

「甘いなシグナム。レイヴェルトセットアップ。モード1アイゼン・メテオール」

初撃を躲した俺はセットアップを済ませた

「簡単にやられないでくれよ。ふんっ!!」

俺はアイゼン・メテオールを剣本来の重さを利用した打ち下ろしでいかす。

いくら剣の腕があるシグナムと言えども筋力では確実に男の俺よりも劣る

「くっ!!」

なんとかさばいたか

「どンドン行くぜ!!おらぁっ!!」

OTHERSIDE

なんとか一度距離を置く事ができたシグナム

「紫電一閃!!」

電気の魔力を斬撃にして飛ばすシグナム

「モード2 爆発の剣」エクステンション 剣は変わっていないが触れたところが爆発する

爆発によって舞い上がった砂塵

「目眩ましか!!そこだ!」

シグナムはもう一つのフォルムボーガン形態のレーヴァティンをうった。

「気配を消した俺の存在に気づいたか。流石というべきかな烈火の将。なら俺も敬意を表して本気で行くぜ!!」

そこから先程までと纏う空気が変わった

「モード3 音速の剣」シルファリオン

先程のゴツイ剣とは違い速さを追及した形の剣だった

「はあっ!!」

一振りですべての斬撃が飛び出した

「これは防げるか?」

しかしシグナムも百戦錬磨の武人

大半はさばききったもののさばききれずに直撃する

「ぐわあっ!!」

倒れこむシグナム

そして剣を突き付けた宗谷

「終わりだな。」

FW陣

「す、すごい!!!」

「あのシグナム副隊長を簡単に。」

「やっぱりすごいなあ宗兄は」

キヤロは言葉を失っている

「確かに実力はすごいね。」

驚きながらも落ち着いているのは

「陸戦SSS+は伊達じゃないってことだね」

認識を改めるフェイト

「はあ〜これでデスクワークもちゃんとしてくれたらなあ。」

ため息をこぼすはやて

「はあ〜マジで疲れた!!!」

デバイスを待機状態にした宗谷が訓練スペースから戻ってきた

「ほなみんな自己紹介といこか。」

はやてに言われて横一例に並ぶFW陣

「ティアナ・ランスター二等陸士です。」

「スバル・ナカジマ二等陸士です。」

「エリオ・モンディアル三等陸士です。」

「キヤロ・ル・ルシエ三等陸士であります」四人が一人ずつ挨拶をした

「俺は山村宗谷一等陸尉だ、よろしく」

「お前達は今から訓練なんだろう？すまなかつたな、貴重な時間を奪った。」

謝る宗谷にFW陣は驚いた

「そんな！謝らないでくださいよ。あんなに素晴らしい模擬戦を見せていただけたんですから。」

ティアナが言った

「そういつてもらえると助かる。あ、ちょっといいか？」

「?何でしょうか？」

ティアナを近くによんだ宗谷

「6課のデスクワークって新人のお前達でも結構あるのか？」

「はい。少なくとも前にいた部隊よりは。」

「そうか、ありがとう。」

そう言うと宗谷は歩いて部隊長室に向かった

「?????」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7029y/>

リリカルなのはStrikers 支え支えられて

2011年11月21日21時41分発行